

令和元年度 第3回 仙台市情報モラル教育推進会議 開催

令和2年1月28日（火曜）実施

第3回情報モラル教育推進会議では、本事業の活動状況を確認・評価し、次年度の取組や方向性を検討しました。

1 家庭における推進検討部会の取組について

令和元年度の活動	1 情報モラルに関する家庭向けリーフレットを作成し、市立小中学校児童生徒の全家庭に配付 2 抽出校を対象に、活用状況についてアンケート調査を試行
リーフレットの活用について	・リーフレットの活用・取組状況は、小学校 78%、中学校 56%だった。 ・情報モラルの関心が高まったのは、小学校 55%、中学校 43%だった。 ・家庭内でルールを作ったのは、小学校 23%、中学校 17%だった。（すでにルールが作られていた家庭は、小中学校とも 34%）
次年度のリーフレットについて	・リーフレットは遊びを通して取り組みやすい内容が良いが、レベルや学年別等、何種類かのパターンの作成も検討が必要ではないか。 ・中学生にリーフレット案を作成させることで、新たな発見があるかもしれない。 ・配付時期や取扱い方を学校と PTA で相談できると良い。 ・アンケートは継続していきたい。全校に拡大できると普及効果になるのではないか。
アドバイザーからの指導助言	・リーフレットを活用している中学生の割合が約半数とまだ少ない。せっかく作成したのも実践に移さなければ意味がない。クロスワードの内容からどう行動するかが次の課題か。 ・レベル別リーフレットを作成するのであれば、ゲーミフィケーションを上手く利用しているものになるとよい。 ・アンケートを QR コードで実施するのはどうか。負担なく簡単に実施でき、効果的に回答結果を得られるのではないか。

2 学校における推進検討部会の取組について

令和元年度の活動	1 児童生徒の情報モラルの実態把握 2 短時間指導事例の拡充 3 「情報モラル教育実践ガイド 活用の手引」作成
今年度の実践について	・7月と12月に CBT 調査を行った。小学校は全国平均に比べて知識・理解が高い傾向にあるが、セキュリティに関しては、他の項目に比べて低い。中学校も知識・理解が高い。 ・1 回目の CBT 調査の結果から、各校の弱点に対応し、これまでの短時間事例にないもの（小学校 4 事例、中学校 2 事例）を追加した。 ・目的に合った事例を探しやすいよう、逆引きできる「活用の手引」を作成する。
今年度の実践を踏まえた改善の方向性	・CBT 調査を市全体で行うことで、市の平均を知り、各学校の課題発見と改善につなげていきたい。 ・情報モラルに 1 単位時間を使用する指導はなかなか難しいので、短時間指導事例に力を入れていただいたのがありがたい。より一層取り入れていきたい。 ・教師から生徒への指導だけでなく、異学年交流、小中連携を図ることで大人とは違うアプローチを期待する。
アドバイザーからの指導助言	・学校で情報モラルを教育することの難しさを感じている。学校では、コンピュータを科学的に知る必要がある。また、一人 1 台の環境で児童生徒が個人アカウントを持つことができれば、セキュリティは上がる。 ・短時間指導事例をいつ、どのようなモチベーションで行うかが重要。強化月間を作ることも大切。 ・CBT 調査の結果から、小学校のセキュリティの低さが気になる。予算的な問題もあるが、調査の全校実施は、カリキュラムマネジメントの面から見ても望ましい。 ・実践ガイドの逆引きは必要だと考える。他自治体からの問い合わせもあり好評だと聞いている。活用の手引の作成で更に活用を促せる。

3 次年度に向けた提言

- ・短時間指導や PTA からの啓発は効果が上がっているので、継続的に実施してほしい。
- ・情報モラルだけではない、総合的な情報活用能力の育成が求められる。
- ・変化している情報社会、コンテンツが溢れている中で、子供たちがそれらに対してどのような付き合い方をしていくか考えていかなければならない。